

上昇一服感がみられる人民元、 今後は安定感のある推移に期待

中国では、為替相場の安定を目的として、当局が為替の変動の一部を管理する管理変動相場制度が採用されています。最近の人民元(対米ドル)動向をみると、9月7日までは人民元高が進行したものの、同下旬にかけて下落に転じ、足元では横ばいでの推移となっています。これは、需給要因に加え、当局による新ルールの導入や規制緩和などが影響している側面があると考えられます。

人民元は、中国人民銀行(中央銀行)が営業日ごとに算出・公表する「基準値」(対米ドル)の上下2%の幅での変動が認められています。従来、「基準値」は、①「前日終値」および②「通貨バスケット*」を参照し、決定されていました。しかしながら、2017年5月に、新ルールが導入されたことに伴ない(従来の①②に、③「逆周期因子」が追加)、当局が市場の実勢にあまり左右されず「基準値」を決められるようになったと言われています。9月上旬にかけて人民元高となったのは、中国景気が予想以上に堅調であったことや米ドル安が進行したことなどが背景とみられるものの、一部には、10月に共産党大会を控える中、「強い人民元」を演出するために、当局が人民元高誘導をしたためとの見方もあります。また、9月下旬にかけて、人民元が下落に転じたのは、同11日、市中銀行に対して義務付けていた外貨準備金の預入れ**が撤廃されたことを受け、当局が、人民元の一段の上昇を抑えようとしているとの見方が広がったことが影響したと考えられます。なお、外貨準備金の預入れ撤廃は、市場では、人民元に対する当局の自信のあらわれとも捉えられており、足元で人民元の推移を支える要因になっているとみられます。

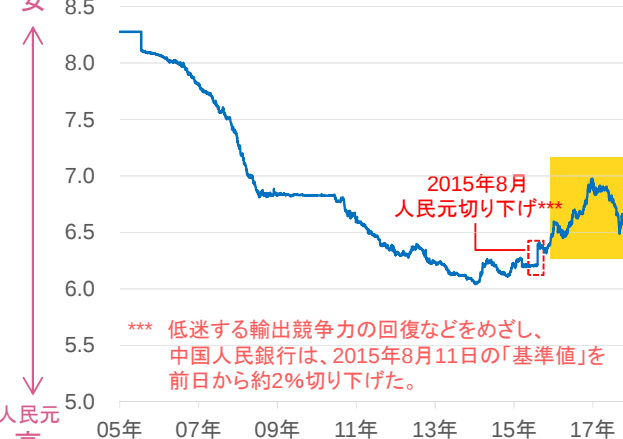
10月の共産党大会では、習近平国家主席への権力集中が確認され、同氏の政治基盤は一段と強固なものとなりました。このような中、11月10日、中国政府は国内の金融業務に関する外資の参入規制の緩和を発表しました。構造改革のもと、今後も外資に対する規制緩和が進み、海外から新たな資本流入が拡大するようであれば、中長期的には人民元高要因になると考えられます。ただし、短期的には、米国における利上げペースや中国景気の動向などが注目され、米国利回りの急上昇や中国経済の急減速がみられない限り、人民元(対米ドル)は、安定した推移が続くものと期待されます。

* 通貨バスケットは、新興国を含む24カ国・地域の通貨で構成される。構成比率は、米ドルが最も高く、ユーロ、日本円と続く。

** 中国人民銀行は、人民元の高騰を抑えるために、2015年10月より、顧客向けに外貨予約を取り扱う金融機関に対して、外貨準備金を預入れることを義務付けていた。

人民元(対米ドル)の推移

人民元(対米ドル) (2005年1月初～2017年11月15日)



信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。